

協働型サービスラーニングをめざす教科における 選択パターンの導入

Introduction of the selection pattern in the subject which aims at collaborated type service learning

川田 博美^{*1}
Hiromi KAWADA^{*1}

^{*1} 名古屋女子大学短期大学部

^{*1} College of Nagoya Women's University

Email: kawada@nagoya-wu.ac.jp^{*1}

あらまし：情報系短大生を対象として、1年から2年までの4セメスタを利用して、1・2年合同で展開する教科『バーチャル・カンパニー演習』（入門・基礎・実践・応用）は、本専攻と他大学や地域団体との『協働型サービスラーニングの実現』を目標にしている。この教科では、地域団体との協働による地域貢献のためのイベントの運営と実施をこの教科の内容として取り組んできた。さらに、2011年度からは、純粋にこの教科だけで育成する学生に加え、課外で協働団体によって実施する「地域貢献ボランティア育成」に「社会人基礎力育成」を合わせたセミナーと実際の町おこしイベント（現場活動）への参加を含めた内容で展開を始めた「地域貢献ボランティア（社会人基礎力）育成プログラム」とのリンクによる学生の育成も実験的に進めている。この取り組みを始めて6年が経過し、この教科が1年次必修ということもあって、毎年100名～150名の1・2年の学生と6名の教員がこの取り組みに参加してきたが、2013年度からはさらに多くの学生の参加を受け入れるための仕組み作りが必要になってきた。そこで、これまでは、取り組み内容についての選択肢のなかったこの教科において、3つのプロジェクトを設定した授業展開の方法を実験的に進めている。その前半を終了したので、学生の選択についての方向性を報告する。

キーワード：情報教育，短大教育，協働型サービスラーニング，地域貢献ボランティア育成，社会人基礎力育成

1. はじめに

2004年度から本専攻（名古屋女子大学短期大学部生活学科生活情報専攻）で実施している『ハートライブ・プロジェクト』は、社会が求める人財を「人間的で実践的な職業人」と「自立する女性」に求め、そうした人財を、「実践的技術教育」と「人間性・社会性共育」の2つの「きょういく」により、学生の「能力」と「自信」を育もうとする試みにおいて、特に「人間性・社会性共育」の中心となるプログラムとして取り組みを開始したものである。

その一環として2005年4月より、週に1回『ハートライブ・セッション』という、1、2年共通の時間帯を、時間割の一部として組み込んで、『バーチャル・カンパニー』の活動⁽¹⁾や、コミュニケーション力育成のためのセミナーなどの実施に利用してきた。2006年4月からは、教科『バーチャル・カンパニー演習』（入門・基礎・実践・応用）をカリキュラムに設置し、1年から2年までの4セメスタを利用して『ハートライブ・プログラム』の1つとして、カリキュラムの中で提供できる環境が整った。この教科は、現在、1、2年生が協働して1つのイベントを企画・運営させようとする内容となっており、目標となるイベントを毎年2月に開催する『春待ち小町（はるまちこまち）』と位置づけ、その実現に向けての授業展開をしている。イベントの開催を目標として授業展開するようになって3年目

となる2009年度から、教科『バーチャル・カンパニー演習』は、協働型サービスラーニングの実施をめざし始めた^{(2)~(7)}。

さらに、2011年度からは、その一環として、地域団体と連携して学生を地域貢献ボランティアとして育成することを目指したセミナーなどを実施して、カリキュラム外でボランティア活動に関する啓発と「社会人基礎力」の育成を実験的に進めている。

その後、履修者の増員が見込まれる事態となり、1つのイベントのみでは収容しきれないという予測から、3つの選択肢を設定して実験を開始している。その内容を報告する。

2. 履修者の状況の変化

近年の短大の置かれる状況の変化に対応する形で、本専攻は、1995年以来続いてきた「専攻」という専門性を重視した設定を2013年度の募集時より終了することになった。これまでは、生活学科として、3つの専攻（生活創造デザイン専攻、食生活専攻、生活情報専攻）を有してきたが、2013年度よりは、これらをそのまま3つの「コース」として設定し、定員80名の本専攻のみで展開してきた教科『バーチャル・カンパニー演習』は、定員120名による必修科目『地域貢献演習』（4セメスタで開講）に引き継が

れる予定となった。このことにより、これまで、本教科は100～150名の履修者により運営してきたが、最大240名を収容する可能性が出てきた。現在1つのイベントの企画と運営を実施して履修者を各役割に分散させて実施しているが、これまで5回実施してきた実績から100名程度での実施が指導上の限界であるとし、そこに収容しきれなくなった140名を受け入れる他の企画内容が必要となったのである。

3. この教科で身につけたい『社会人基礎力』

「協働型サービスマーケティング」を通して身につけたい本教科の目標を2008年に経済産業省が示した「社会人基礎力」にした。その目標基準の一つとして、経済産業省の「今日から始める社会人基礎力の育成と評価」が参考になる。それによれば、社会人基礎力としては、3つの能力と12の能力要素がある。3つの基礎能力とは、①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームで働く力である。また、12の能力要素は、①主体性、②働きかけ力、③実行力、④課題発見力、⑤計画力、⑥創造力、⑦発信力、⑧傾聴力、⑨柔軟性、⑩状況把握力、⑪規律性、⑫ストレスコントロール力である⁽⁸⁾。

2012年度より、本教科でこれまでの設定していた1つのプロジェクトに2つのプロジェクトを加えて、合わせて3つのプロジェクトを設定することにより、それらの各要素の育成につなげることができるように実験的な運用を開始した。

4. 3つの能力に応じた3つの『プロジェクト』

これまでは、毎年2月に地域の子供たちを対象として実施するイベントの『春待ち小町』のみをイベント企画と運営の目標として履修者全員で取りまかせ、「社会人基礎力」の3つの能力と12の能力要素を育むこととしてきたが、新たに2つのプロジェクトを設定し、3つのプロジェクトを「社会人基礎力」の3つの能力とそれに伴う能力要素に結び付けることにした。2012年度より学生に選択を促した3つのプロジェクトは次のとおりである。

1. 前に踏み出す力(アクション)を育むことを目標とする『セルフ・セレクト・プロジェクト』(地域貢献活動参加型サービスマーケティング)
2. 考え抜く力(シンキング)を育むことを目標とする『オリジナル・プランニング・プロジェクト』(教員協働型サービスマーケティング)
3. チームで働く力(チームワーク)を育むことを目標とする『春待ち小町プロジェクト』(地域団体協働型サービスマーケティング)

5. おわりに

前に踏み出す力(アクション)を育むことを目標とする『セルフ・セレクト・プロジェクト』では、自分で選択した学外での地域貢献ボランティア活動(フィールドワーク)に参加し、実際に社会参加し

て、実践を通じた学外での学びと授業などの学内での学びを融合させる。前・後期各40時間の活動時間とその活動内容について、参加先の団体より活動証明を受け、実績として認定し、この活動を通じて、主体性、働きかけ力、実行力といった、「前に踏み出す力」を身に付けさせ、評価は、活動証明とレポート等で行う。

考え抜く力(シンキング)を育むことを目標とする『オリジナル・プランニング・プロジェクト』では、学生と教員により独自に地域貢献活動を企画・運営する。学内外を学びの場とし、前・後期各40時間の活動時間を利用して、地域貢献ボランティア活動を展開し、この活動を通じて、課題発見力、計画力、創造力といった、「考え抜く力」を身に付けさせ、評価は、各担当教員が行う。

チームで働く力(チームワーク)を育むことを目標とする『春待ち小町プロジェクト』では、地域貢献ボランティア育成団体(ASJ)と協働してイベントを企画・運営する。前・後期各40時間の活動時間を利用して、1月の『春待ち小町』を本学会場で開催し、この活動を通じて、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力といった、「チームで働く力」を身に付けさせ評価は、協働する地域団体が行う。

この選択肢により2012年度の活動内容を選択させたところ、ほとんどが『オリジナル・プランニング・プロジェクト』か『春待ち小町プロジェクト』のいずれかを選択することになった。

参考文献

- (1)川田博美、武岡さおり、鷲野友美、小山幸治(2005): “短期大学における学生の運営によるバーチャル・カンパニーの試み”、教育システム情報学会30周年記念全国大会論文集
- (2)川田博美、佐藤優(2010): “協働型サービスマーケティングを目指す「バーチャル・カンパニー演習」の試み”、名古屋女子大学紀要(人文・社会編)第56号
- (3)川田博美、箕浦恵美子、佐藤優(2010): “イベント実施により協働型サービスマーケティングを目指す教科の展開”、教育システム情報学会第35回全国大会講演論文集
- (4)川田博美、箕浦恵美子(2011): “協働型サービスマーケティングの実現に向けての教育システム構築の可能性”、名古屋女子大学紀要(人文・社会編)第57号
- (5)川田博美、箕浦恵美子、佐藤優(2011): “協働型サービスマーケティングを目指す教科に求める学習効果”、教育システム情報学会第36回全国大会講演論文集
- (6)川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2011): “地域貢献ボランティア活動とリンクした「社会人基礎力」を育成する教育プログラム導入の試み”、教育システム情報学会第36回全国大会講演論文集
- (7)川田博美、箕浦恵美子(2012): “「協働型サービスマーケティング」をめざす教科の「社会人基礎力」を育成する教育プログラムとしての可能性”、名古屋女子大学紀要(人文・社会編)第58号
- (8)経済産業省(2008): 『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、2008年6月26日、経済産業省